

アジア研究教育ユニット（特別経費）令和元年度教育研究報告書

事業課題名	Overseas Research Activities Grant KUASU Challenge+ 2019
代表者名	久野秀二（経済学研究科）
事業概要 (600字程度)	<p>経済学研究科は、東アジア地域の持続的発展に関わる社会経済的諸問題の実際の解決に対応した実践志向型の学術研究者、実務エコノミスト、社会的企業家などのグローバル人材を育成することを企図して、国際プログラム「東アジア持続的経済発展研究コース」を中心に大学院教育の国際化を進めてきた。同プログラムはその持続可能な発展というテーマの性格上、研究対象となる社会経済的問題を幅広く解釈し、隣接学問分野の手法を取り入れる学際的アプローチを特徴としており、海外でのワークショップやフィールド調査、出身国以外の学術交流協定校での研修やインターンシップへの参加を所属学生に促している。経済学研究科はまた、京都大学ジャパングートウェイ構想の一環として、学内競争的資金も活用しながら、学生が海外連携研究者に積極的に研究指導を求め、あるいは海外のフィールドで調査研究活動に取り組む機会を提供することを目的に、海外短期調査助成プログラムを実施してきた。本事業は、それらの成果と経験を活かしながら、海外（外国人留学生については日本国内を含む）での調査研究活動、より具体的には、修士論文・博士論文研究のためのフィールド調査やアーカイブ調査を実施したり、海外の大学・研究機関で研究への助言を受けたりする学生を対象に渡航費・滞在費の一部を補助するものである。</p>
成果の概要 (800字程度)	<p>本事業は11月に入ってから募集を開始し、11月末で締め切という短い応募期間にもかかわらず、修士院生2名、博士院生2名から申請があった。申請にあたっては、海外研究機関の受入れ教員への依頼、フィールド調査を行う組織や人物への交渉も含め、すべてを自分自身で計画し実行することを要求した。審査にあたっては、研究テーマと研究アプローチ・手法の妥当性、研究計画の具体性、フィールド調査によって得られる成果についての見通し、研究成果の将来展望の観点から審査委員会で厳格な審査を行った結果、申請者全員について補助することを決定した。</p> <p>① 修士1回生 出身国である韓国でのアーカイブ調査および企業訪問調査。経営史研究の分野ではアーカイブ調査が不可欠であり、当該学生の助けとなった。</p> <p>② 修士1回生 米国出身。東北・三陸地方の漁村を対象に、漁業資源管理をめぐる知識移転のあり方と震災前後の変化について研究しており、石巻市で県や市の担当者、漁協関係者、民間事業者、水産試験研究機関などへのインタビューを実施し有意義な調査となった。</p> <p>③ 博士2回生 ベルギー出身。気候変動条約に基づくグローバル環境ガバナンスと、主に東アジア3カ国の排出権取引制度について研究しており、スペイン・マドリードで開催された第25回国連気候変動条約締約国会議へ参加した。</p> <p>④ 博士2回生 中国出身。グリーン調達 (green public procurement) に関する欧州、日本、中国の制度実態と影響について研究しており、研究指導とフィールド調査（インタビュー及びデータ収集）のため、オランダ・フローニンゲン大学に滞在した。</p> <p>以上のように、いずれの学生も有意義な調査研究活動をそれぞれ実施できており、研究内容も東アジアの持続可能な発展に関するものであり、KUASU 事業の発展に寄与することが期待される。なお、来年度以降も継続する場合は、日本人学生にも「チャレンジ」してもらえよう、周知の仕方に工夫が必要である。</p>